

中原中也賞

受賞者決定

中原中也賞は、日本の近代詩史に足跡を残した本市出身の詩人、中原中也の業績を永く顕彰することを目的に、新鮮な感覚を備えた優れた現代詩の詩集に贈る文学賞です。

第30回となる中原中也賞は、2月に行われた選考会において、応募、推薦のあった247点の作品の中から、高村而葉さんの『生きていますものはいつも赤い』に決定しました。

受賞者には、正賞として中原中也ブロンズ像と、副賞として100万円を贈呈します。また、4月29日(火・

祝)に第30回中原中也賞の贈呈式と北川透氏(詩人・文芸批評家)による記念講演を開催します。

文化交流課 ☎ 083・934・2717

選考委員評

本年1月に開催された推薦会での検討の結果、6冊が選ばれ、選考会の対象とされた。

最終的な議論の対象となった作品は高村而葉『生きていますものはいつも赤い』、のもとしゅうへい『通知センター』だった。のもとしゅうへい『通知

ぐしやすく、ながい朝」「いま」などにはネット社会への違和感や抵抗感が見て取れる。軽みをもそなえ、現在を切り取る詩集として高く評価された。高村詩集は、掴んだ地点や身動きできないその場所に錨をおろすようにして言葉を刻む。言葉をめぐるためらいや、どこでどう生きるのかといった疑念や自問が滲む。生きるうえでぶつかる壁や困難から目をそむけず、時間をかけて編まれたと思われるこの一冊には稀なる完成度の高さがある。

最後まで白熱した討議の結果、高村而葉『生きていますものはいつも赤い』を第30回中原中也賞にふさわしい詩集として委員全員一致で選出した。

ちょっと紹介！
作品の世界

山の目

山の目に映るのは、わたしの村
自然の中で生まれて、切り拓いた
わたしだけの、村

目を閉じれば

まぶたの裏から村人がやってきて
顔もないのに小判をくれる

わたしは怒っていたのか

村人は道化のふりをして、目の中でおどける

それは、現実の表面に足跡を残していつて

ざらざらとして尊い、でも

当然、日は落ちるから

体を休ませたほうがいい、あなたも

―受賞作品

『生きていますものはいつも赤い』 所収
「山の目」より



高村 而葉
『生きていますものはいつも赤い』
(思潮社)



高村 而葉

1977年大阪府大阪市大正区生まれ。2005年4月ごろ、生きている詩人に会うという目的のために、詩(のようなもの)を書き始める。同年5月から『現代詩手帖』の新人作品欄に投稿。2009年、第47回現代詩手帖賞を受賞。2024年、第1詩集『生きていますものはいつも赤い』を思潮社より刊行。

受賞者コメント

初めて詩というものに触れたのはいつだったか、遠い記憶のなかの、ぼんやりとした一瞬を思い出してみる。

小さな子供には大きな国語の教科書。さらさらとして少し厚みのある紙。贅沢な余白に囲まれた文字、だけだったか、あるいは挿絵があったかもしれない。空中ブランコをしている女性の絵だったような気もするし、男性だったような気もする。曖昧な映像の記憶。けれど、中原中也の「サーカス」を読んだその時の感触は、深く記憶に残っている。

茶色い戦争、サーカス小屋、ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん。

教科書で読んでから40年ほどが経って、中原中也賞を頂き、あの時の詩の感触がよみがえりました。いまでもゆらゆらとゆれていきます。

市政トピックス



ウェブサイトでも公開中

市スポーツ特別表彰・市スポーツ協会表彰の表彰式を開催

2月12日（水）、各種競技の国際大会で優秀な成績を収められ、本市のスポーツ振興に寄与された8人に令和6年度山口市スポーツ特別表彰を授与しました。

また、山口市スポーツ協会に加盟する個人・団体で各種競技において優秀な成績を収められた22人と3団体に山口市スポーツ協会表彰奨励賞



記念撮影の様子

を、長年スポーツ協会のために尽力された6人に同功労賞を授与しました。市長は「本市では、スポーツを『する・みる・ささえる』の視点のもと、スポーツから生まれる絆や交流が、地域の活力につながるよう、さ

まざまなスポーツ施策を推進している。今後も各種スポーツ施策を展開し、本市が目指す『ずっと元気な山口』を実現してまいりたい」とあいさつしました。
図 スポーツ交流課 ☎ 083・934・2912

市美術展覧会大賞を小田伸次郎さんの作品「生命の樹・インド更紗」が受賞

3月2日（日）、令和6年度山口市美術展覧会の表彰式を行い、14歳から90歳までの市民からの応募作品143点のうち15点が入賞し、小田伸次郎さんの絵画「生命の樹・インド更紗」が大賞に輝きました。



大賞受賞作と小田さん（右）、市長（左）

市長は「創作された方々の個性が豊かに表現をされ、作品と真摯に向き合い、創作活動を大いに楽しんで

おられる様子が伝わってくる」と述べました。
図 文化交流課 ☎ 083・934・2717

株式会社ポーラと包括連携協定を締結

3月7日（金）、株式会社ポーラと本市が、健康づくりや災害時の支援に関することなど、6項目について包括連携協定を締結しました。



株式会社ポーラの安野執行役員（右）と市長（左）が協定書にサイン

市長は「本協定締結を契機として、本市が抱える幅広い分野の行政課題の解決をはじめ、市民サービスの向上や地域の活性化などが図られ、市民の皆様が安心して元気に暮らすことができるまちづくりがさらに進むものと大いに期待している」とあいさつしました。

今後、AIを利用した肌分析や血流計などを活用した健康増進につながるイベントなどを予定しています。
図 公民連携推進室 ☎ 083・934・2728

表紙の写真

今だけのコラボレーション

表紙の写真は、日本三名塔のひとつ、国宝瑠璃光寺五重塔と梅の花とのコラボレーションの様子です。

瑠璃光寺五重塔は現在、約70年ぶりの檜皮葺屋根の全面葺き替え修理、「令和の大改修」が行われています。2月上旬にこれまで塔を覆っていた工務用シートが外され、鉄骨の足場が残っているものの、1年6カ月ぶりに五重塔がその姿をあらわしました。

五重塔の周りには赤、ピンク、白の色とりどりの梅の花が咲き始め、久しぶりの再会を喜んでいるかのようです。

訪れた観光客は「梅の花がきれいに咲いている」「足場がとれたらまた来たい」と記念撮影を楽しまれていました。

足場付きの瑠璃光寺五重塔と梅とのコラボレーションという、今だからこそその景観で、春の訪れを感じることができました。

図 広報広聴課 ☎ 083・934・2753



▲香山公園にて瑠璃光寺五重塔を彩る梅の花